

地域の学びの場のネットワークでまちの課題解決に ～みんなの尼崎大学の取り組み～

1. 取り組みの体制と運営方法

尼崎市役所のひと咲きまち咲き担当局にある、尼崎大学・学びと育ち研究担当という部署に、「みんなの尼崎大学」を担当している係があります。みんなの尼崎大学は学校教育法に基づく大学ではなく、尼崎市が進める「学び」をテーマとしたまちづくりのプロジェクトです。

事務局は市の職員3名と、企画・運営をともに進めるコンサルタントで構成されています。外部との連携については、趣旨に賛同して一緒にやりたいという団体はウェルカムだと考えられていて、例えば、コープこうべ、尼崎商店街サミットなどとも一緒に取り組まれています。

本物の大学とは、以前から尼崎市と園田学園女子大学とは包括協定が結ばれており、市の職員の方が講師に行かれたり、園田学園の学生がまちでボランティア活動をするのを応援されたりしていたという素地はありました。また尼崎市には関西国際大学や産業技術短期大学といった大学もあり、できるだけ一緒にやっっていこうとされています。

2. みんなの尼崎大学を立ち上げるまでの経緯

平成28年、市制100周年のときに、尼崎市自治のまちづくり条例が制定されました。これからの尼崎市を考えたときに、今は人口が下げ止まっているが、将来的には確実に減るだろうということ、都市化が早かったため老朽化している建物が多い、高齢化が近隣他都市と比較して非常に進んでいるまちだといった課題が数多く存在しています。人口が減ると市の税収が減ってきますし、高齢者の方が増えると社会保障費が増えるほか、市の職員だけですべての課題に対応することができなくなるという懸念があります。

そこで市としては、地域で解決できる課題は市民の皆さんで解決できる力、つまり自治力を高めていかないといけないという思いがあり、自治のまちづくり条例が制定されました。そのためには地域の方々に普段からまちに関心を持ってもらうような仕掛けが必要です。大阪のベッドタウンとして寝に帰ってくるだけの街ということではなくて、尼崎に関心を持つ人を増やしていかなければなりません。それで尼崎市では「学び」をテーマにまちづくりのプロジェクトをしようということになったとのことでした。

知らなかったことを学んだり、理解を深めたりすることは楽しいことです。市内のおもしろい人や場所や活動を知ること、尼崎のことを面白いと思う人を増やしていこうというプロジェクトになっています。

尼崎市の総合計画のキャッチフレーズは「ひと咲き まち咲き あまがさき」。人と人がまちで出会い、学び、活動に発展していく。そして花から実を結んで種になっていくように自分たちもやりたいなと思って活動を始めるということが綿々と続いていく。人が咲いて、まちが咲いていくということをイメージして施策を展開されています。

3. みんなの尼崎大学のコンセプト

もともとこの構想は平成24年度から5年間、博報堂から尼崎市顧問として招かれた船木成記さんによるものです。

船木さんの中に、「学習する組織」ならぬ「学習する地域」というものがあり、それが元になっています。

全国的に本物の大学ではない、コミュニティカレッジという取組があり、近畿圏でもいくつかありますが、それぞれのカレッジではそれぞれ自分たちで自主事業として授業のカリキュラムを組まれています。

みんなの尼崎大学もコミュニティカレッジの1つですが、事務局が授業を企画、実施するというよりは、まちの人が、ここかしこで行っている授業を把握して紹介していこうとされています。みんなの尼崎大学では尼崎市内のいろんな学びの場、例えば公民館とかお店などの民間の施設とかで行われる学びの場を大学のキャンパスに見立てて、尼崎市全体が大きい大学だというイメージで構成されています。

平成 29 年から始めており、まずは市民の方々にみんなの尼崎大学を認知いただくために最初は事務局で講座を用意して、いろんな学びの場を宣伝されています。事業の進め方は、行政の職員と委託しているコンサルタントとともに考えながら組み立てられています。年間の事業予算としては、宣伝用冊子の作成込みで約 500 万円とのことです。

4. みんなの尼崎大学の構成、内容

・入学願書、学部、ガクトク

図が入学願書です。市内在住や資格にかかわらず、自筆で願書を書くことができます。尼崎市に関心のある人であれば、誰でも入学できます。入学願書にはプロフィールを記入する欄の他、みんなの尼崎大学ではこんなことをやっていますという案内が載っています。これを提出(ウェブ、ファクスでも可)すると、学生証が送られてきます。学生になると月に一回月報(メールまたはファクス)として、来月の授業案内が届きます。

さらに学生になるメリットとして学生だけの特典「ガクトク」があります。ガクトクに協賛しているお店に行くと、例えば商品やサービスの代金のちょっとした割引や、ドリンクや生ビールの 1 杯サービス、雀荘で麻雀の打ち方を店長が教えてくれるというふうに、学生の特典になるようなことをしてもらえます。市内の個人営業でやっている店舗を中心に増やすことによって、経済の好循環にもつながればとの思いで始められました。

学部や学科もできています。例えば尼崎市の5つの商店街による会合「商店街サミット」メンバーが「商学部」と名乗っていたり、子どものための居場所づくりをしている団体が「子ども学部」として活動していたり、コープこうべは「生活科学部」をつくっています。このように参加したい団体に対してはすべてウェルカムという姿勢で臨まれています。なお、講座のスケジュールはウェブで検索して調べることができます。



・オープンキャンパス

公民館など公共施設だけでなく、民間の施設を含んで、市内各地にある学びの場を訪問するのが「オープンキャンパス」です。3年目となる2018年度には市内5か所の学びの場を回りました。

開催日	タイトル	場所
9月26日(水)	たどる調べるタイムトラベル	尼崎市地域研究史料館
10月26日(金)	そうか！身障センターだったんだ！	尼崎市身体障害者福祉センター
11月28日(水)	みとりまちってどんなまち？	瓦宮西園田福祉会館
1月19日(土)	こどももおとなも集まる場	TSUMUGUBA
2月8日(金)	たばこ吸ってもいいですか？	尼崎市役所開明庁舎

・まちじゅう学祭

学びを通じて、たくさんの新しいつながりと活動が生まれるように、2018年の10月6日から8日まで初の学園祭、「まちじゅう学祭」が開催されました。会場は尼崎市のまちじゅうですが、10月8日が尼崎の市制記念日で市民まつりが阪神尼崎駅周辺で開催されるため、8日は阪神尼崎駅周辺で開催される催しを中心にピックアップされています。

・学生相談室

「尼崎でこんなことをしてみたい」、「私のこんな能力を生かしてほしい」、「企画を練っているのでみんなで参加して」といったお悩みごとや課題解決策を意見交換するのが「学生相談室」です。みんなの尼崎大学のなかでこんなプロジェクトをしたいというシーズ(種)が集められています。月に1回みんなの尼崎大学の学生でまちづくりに関心がある方々が集まって会議が行われています。

例えば、平成31年3月に尼崎城ができることにあわせてお城のプラモデルを造りたい、という方が相談に来ました。関心のある人がそこでチームを作り、試作品ができないか産業技術短期大学を訪問し、3Dプロジェクターをお借りしたり。お城のプラモデルは将来の夢として今回はシャチホコのプラモデルをクラウドファンディングでつくることに成功しました。

また、防災アトラクションゲームを市内で開催したいという団体に、市が防災に関心の高い自治会を紹介されました。それで地域の小学校を借り上げて合同で防災イベントが開催されました。その自治会はこのイベントの日に初めて災害時要避難援護者とともに避難訓練を行ったほか、ソーラーキッチンを所有している園田学園女子大学や三和市场の怪物「ガサキング」が参加するなど各種団体にも声をかけて広がりをもった防災イベントを開催することができたとのことです。このように人と人をつなげることで困りごとを解決していこうとされています。

・みんなのサマーセミナー

みんなのサマーセミナーはみんなの尼崎大学が始まる前の2015年から開催されています。「学習する地域」構想の中でスタートされました。これは愛知サマーセミナーを参考にしているとのことです。愛知サマーセミナーは30年前から開催され、今は3日間で2000講座を開催して7万人が参加するという学びのイベントです。愛知サマーセミナーを5年前にのちに実行委員となるメンバーの方々に視察に行かれて、その道中で尼崎でもやろうと決められたとのことです。

尼崎市では提案型共同事業という制度があり、市がこういう事業をするときに一緒にやる市民主体を募って行う事業です。2018年は8月4日・5日の2日間、市立尼崎双星高等学校の全教室を借り切って300講座が開講されまし

た。参加費はほぼ無料です(材料費が必要な場合は有料)。実行委員、講師はみんなボランティアで、実行委員会に対しては市から30万円が支出されていて残りは実行委員会のメンバーが協賛金や寄付を集めて運営されています。

5. センセイの発見、育成

みんなの尼崎大学のコンセプトは「みんながセンセイ、みんなが生徒、どこでも教室」です。センセイに関してはこの2年間ぐらいで新しくなられた方がたくさんいらっしゃるということです。みんなのサマーセミナーや学生相談室からセンセイになる方が多いようです。

みんなのサマーセミナーでは、初めてセンセイを務められる方もいらっしゃるということです。友達からの紹介でやってみようと思う方が結構多く、得意なことを披露する講座をやってみませんかといって市の担当の方も背中を押されています。

例えば、園田競馬のジョッキーをされていた三野さんは、みんなのサマーセミナーで競馬の騎手としてのダイエット方法を披露し、人気が出たのでそのあと公民館でも授業をされています。

後述するコープ園田にある学びと集いのスペース「みなくる☆そのだ コープさんとこ」でみんなの尼崎大学の出張講座の時間を月に1回確保されていて、そこで新しいセンセイを紹介してお話してもらうなど、ステップアップの機会が提供されています。

6. 連携を広げる取り組み

「みなくる☆そのだ コープさんとこ」は、生活協同組合コープこうべが店舗の改装に合わせてつくられた学びと集いの場所です。企画段階から声がかかり、市内に学びの場が増えることに賛同し、企画運営会議に参加されています。

ガクトクについては、商工会議所青年部や尼崎あきんどクラブという団体を通じて参加店舗を募集されたほか、みんなの尼崎大学の担当者が足で稼いでいるということです。

7. 施策の効果、効果を把握する手法

学生相談室は去年までは放課後ミーティングという名称で、夜の部しか開催されていなかったのですが、参加する層が固まってきたので、去年から朝9時からオープンするようにしたところ、夜に参加できない主婦層や夜にお仕事をされている方々に参加いただけるようになりました。それでお知り合いになられた方々が一緒にコラボ授業を始めたリ、イベントを手伝いに行ったりと、そういう繋がりがたくさん事例として出てきているということです。

学部については、生活科学部と子ども学部、商学部、それ以外に市が主催されている健康学部とささえあい福祉学部の2つを合わせて5つの学部ができました。

またクラブ活動のような部活動は、映画が好きな方が集まる映画研究会、本が好きな方が集まり、ABD(アクティブ・ブック・ダイアログ)やポップづくりを行う図書部、尼崎は自転車のマナーが悪いと言われていたので自転車のマナーアップに取り組むチャリ部、尼崎城のプラモデルをつくるサークルプラモ部などのサークル活動ができてきています。

定量的に把握できる効果としては、学生証の発行枚数は現在800枚程度。Facebook ページを見てくださっている方(ページにいいねを押した人)が2,000人ぐらいいるということです。

8. カードゲーム「ATTF2」

カードゲーム「ATTF2」は Amagasaki to the Future II (アマガサキ・トゥ・ザ・フューチャー2)の略で、市制100周年のときに開催した尼崎の未来を考えるためのワークショップで使ったカードゲームを、もう少し作りこんで中学生ぐらい

の子どもたちが自分のまちの課題を解決することを考えるゲームです。

2種類の札があって、ひとつにはまちの課題がいろいろと書いてあります。もう一方には尼崎ならではの「お宝」と呼ばれている地域資源が書いてあります。こういうカードを組み合わせるとまちの課題の解決方法を模倣的に考えることによってまちの課題や地域資源を知るきっかけになるというものです。

9.コミュニティ形成成功の秘訣、運営上の課題など

最後に、尼崎大学のご担当に、コミュニティ形成成功の秘訣、運営上の課題などについて伺いました。

「コミュニティの形成というのはやはり直接顔を合わせて話ができているのがうまくいく秘訣だと思っています。みんなの尼崎大学もみんなのサマーセミナーもそうですけれども単なる場所を提供して集まって話すだけではなく、センセイ同士やボランティア同士が仲良くなるよう、意識しながらそういうつながりをつくっていかうとしています。

運営の課題としては2年やってきてまだ800人ぐらいしか会員になってもらっていないので、学生をもっと増やしたいなと思っています。この2年間でみんなの尼崎大学のコンセプトやイメージはわかっていたと思っていますのでこれから市内全域に展開していくことができたらいいなと思っています。学生になれるのは市民だけではなくだれでも大丈夫です。ほんとはもっと市民の方に学生になってほしいですけどね(笑)。」

■このレターは、尼崎市にヒアリングを行って収集した情報等をもとに、都市活力研究所で編集・制作したものです。

発行元・問合せ先 公益財団法人都市活力研究所
〒530-0011 大阪市北区大深町3番1号
グランフロント大阪 ナレッジキャピタル タワーC 7F
TEL 06-6359-1322/FAX 06-6359-1329